

平成22年10月1日 13時30分～17時00分 江別市民会館21号室

## 外部評価作業

①05-01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実

②05-02 生涯学習の充実

③05-03 青少年健全育成の推進

・出席委員

齊藤委員長、井上副委員長、山下委員、小野寺委員

・説明員

①木村総務課長、伊藤学校教育課長、福井給食センター長

②小林生涯学習課長、寺島係長（生涯学習課）

佐々木情報図書館長、大村主査（情報図書館）

③園部学校教育支援室参事、稲垣係長（生涯学習課）、稲垣主査（学校教育支援室）

・事務局（政策調整課）

山崎課長、川島主査、酒井主査、徳橋主事、長谷川主事

## 会議録

・外部評価作業

### 1 政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

#### 施策01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実

・13時35分～13時47分

木村施策マネージャー説明

・13時47分～15時00分

質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

#### 【井上副委員長】

基本事業01基本事業コストの22年度当初予算が減額になっている理由は何か。

#### 【伊藤学校教育課長】

昨年度は、国の経済対策による各種補助金があり、小中学校にデジタルテレビを配置したが、今年は、補助金がないので大きく減額になっている。

#### 【小野寺委員】

施策の環境変化の部分が、大雑把な感じがすることと、「家庭教育の低下」というあまり聞きなれない言葉が気になる。

#### 【木村施策マネージャー】

幅広い範囲を的確に捉えるため、箇条書きの表現になっている。「家庭教育の低下」とは、道徳、しつけなどの子どもを取り巻く環境の変化という部分で表現している。

### 施策01についての指摘・提言・評価

#### 【山下委員】

施策の課題の部分で、第5次江別市総合計画後期基本計画のP78には、ここで記

載されているものの他に、特色ある学校づくりや学校の活性化、学校の適正規模化、耐震化改修、といったものも記載されているが、なぜ、ここでは欠落しているのか。

#### 【伊藤学校教育課長】

「生きる力」とは、文部科学省の学習指導要領の中で、知、徳、体のバランスがとれた力とし、この「生きる力」のある人間が必要であると考えている。

基本事業01の教育内容の充実が、「知」に近い部分であり、基本事業02が、地域一体で子どもたちを育むということで、道徳心の醸成を含む形としている。基本事業03の健康と食育の充実ということで、子どもさんの体力等を含めたものになっており、これらを含めて「生きる力」という意味で、このような形にしているが、ご指摘のとおり、これだけを見ると言葉足らずな部分がある。また、基本事業04の教育環境については、特に記載がなく、検討していかなくてはならないと思う。

#### 【小野寺委員】

「生きる力」が身についた児童・生徒の割合という成果指標について、もう少し、具体的に調査内容、方法を教えて欲しい。

達成状況の欄で、「キャリア教育の推進」を記載しているのは、江別の特色ある教育の重点にしたいという意図があってあげているのか。キャリア教育という言葉は、ポピュラーなものではないと思うので、注釈や説明が必要ではないだろうか。

#### 【木村施策マネージャー】

成果指標の数値は、江別市教育研究所が毎年9～11月にかけて市内小中学校から数校抽出し、小学校5年生250名程度と中学校2年生150名程度に実施しているアンケートから8つの項目の平均値を「生きる力」の指標として利用している。

#### 【伊藤学校教育課長】

キャリア教育は、中学校で5日間の職業体験をすることによって、生きることや働くことに対する考え方、他人と協調し成し遂げることや感謝する心を育成するという意図で行なっている事業であり、ここでは、具体例としてあげた。

用語の意味は、かなり広く、私どもが行なっている職場体験はその中の一つであると思うので、来年度以降、説明を加えるなどを考える。

#### 【井上副委員長】

数校抽出という話だったが、学校での教育効果的な生きる力の醸成の数値化というのが見えない。例えば、定点校なら、伸びていく率がわかるが、毎年、同じ学校でなければ、数値的に変わってしまい、教育効果が見えにくくなる。指定校を作り、それに対して他の抽出校を見ていくという方法でないと、この数値が本当に指標として生きるのかどうかというのが非常に曖昧ではないか。

#### 【伊藤学校教育課長】

アンケートの対象校は毎年変えており、その年に応じた課題も併せて調査している。各学校においては、国の学力テストの質問に近い内容のものがあるので、学校の傾向としては、ある程度、把握できているが、教育委員会としては、対象校が毎年変わることや同じ児童生徒を追っかけている訳ではないという部分で、トレンドとしては計りづらいものがあるが、今後、その辺は考えて行きたい。

**【井上副委員長】**

一般的な意識調査ではなく、成果指標なので、教育的効果がどうなったかということを出したい。そうすると定点観測などの数値でないと指標にならないと思うので、ぜひお願いしたい。

**【井上副委員長】**

施策の環境変化で、「地域社会の連帯意識の喪失」となっており、「喪失」というのは、ほぼ「0」に近い。この表現は「希薄化」などの言葉にして欲しい。それと「家庭教育の低下」というより「家庭教育力の低下」である。

次に、課題の中で「豊かな人間性など、生きる力の醸成」となっているが、生きる力より人間性の方が、もっと大きいものだと思うので包括しない方が良いと思う。

施策の目的の中で、文部科学省からの教育指導もあり「知育・徳育・体育」という3つの教育的営みと言っていたが、基本事業の中に「食育」を特筆しており、江別市の教育の中には「食育」も入れるべきではないかと思うので検討願う。

**【木村施策マネージャー】**

よりよくなるように改善したいと思う。

**【山下委員】**

目的には、「社会に貢献できる人材を育成する」となっているが、意図では、「生きる力を育成する」としており、イコールとして考えていいのかというのが一点目。

二点目は、施策の達成状況で、基本事業の成果指標は、概ね横ばい・下落傾向にあるにもかかわらず、「各基本事業を一体で行う中で相乗効果がでている」というのは、矛盾を感じるので、説明などを付け加える必要があると思う。

**【伊藤学校教育課長】**

一点目について、ご指摘のとおり文言の整理をする必要があると思うので、整合性が図れるようにしていきたい。

**【木村施策マネージャー】**

二点目の質問について、十分に検討し、新たな表現をさせていただきたいと思う。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

この施策については、やや検討する項目が多かったように思うので、要検討とする。環境変化や課題については、文言を増やし読みやすい形にし、「生きる力」などの抽象的な言葉を噛み砕いたものにして欲しいこと。

施策の目的では、食育を項目に加えて欲しいこと。

指標については、アンケートの概要を書かれたほうが良いと思われることと。特に定点観測上、妥当かどうかについては、検討課題ではないかと思う。成果指標も、8つの項目の平均値となっており、まとめ方が大きかったのではないかと感じる。達成状況については、キャリア教育の説明や相乗効果についても指摘があった。

以上のような指摘があったので、留意願いたい。

なお、今回のものについては、手を加えることができないので、来年度以降、要検討があったということで、見直していただきたいと思う。

## 基本事業01についての指摘・提言・評価

### 【山下委員】

目的の後段に、障がいのある子どもに対する教育的支援について記載されているが、成果指標にはそのデータがない。盛り込むべきだと思うがいかがか。

### 【木村施策マネージャー】

ご指摘のとおり、障がいのある子どもたちの部分についての成果指標がないが、それをどのような形で求めて、指標をだせるのか十分検討させていただきたい。

### 【井上副委員長】

主要事業一覧に、司書の配置や図書費の重点配分など読書に対して力を入れているにも関わらず、触れている基本事業がない。基本事業01教育内容の充実か、基本事業04教育環境の充実のどちらかで触れるべきである。予算化をして充実しようとするなら、成果指標に図書室の充実度合や活用率などを挙げるべきではないか。

### 【伊藤学校教育課長】

学校図書館整備事業という事務事業が基本事業01の中にあるので、もし、図書などの環境整備を入れるとしたら、基本事業01の部分になると思う。

成果指標については、購入冊数や貸出し冊数、蔵書率などいろいろな指標があると思うので、図書の充実として、何か反映できるものを検討していきたいと思う。

### 【井上副委員長】

施策の課題で「豊かな人間性」をあげており、それを育むものとして、図書室などが附帯施設としてあるだろうと思うので、検討させていただきたい。

### 【小野寺委員】

1つ目の意見は、目的の部分で、「生きる力」を身につけるための教育内容を充実させることと、子ども一人ひとりの個性を尊重した教育をすることが一体のものであるということを強調することが必要であると思う。

2つ目は、達成状況の中で、T・Tや少人数指導について取り上げられているが、これは教育指導方法である。この基本事業を進めることよっての成果を少人数学級の実現等に活かしていくなどの行政の努力する内容を強調すべきだと思う。

### 【伊藤学校教育課長】

ご指摘のとおり表記について研究、検討して参りたいと思う。

### 【山下委員】

達成状況の欄に書かれているのが、過去に行なってきたことであり、達成状況ではない。成果指標で学校授業が分かると答えた児童生徒の割合や不登校児童生徒数が悪化しているのに、教科の勉強が好きと答えた割合が増えるなど、なぜ本来、比例するところが相反するのかという部分を分析した結果を記述すべきだと思う。

### 【伊藤学校教育課長】

ご指摘のとおり、成果指標をより分析し、記載していきたい。

～ 評価 ～

### 【齊藤委員長】

障がいのある子どもたちに対する成果指標がないこと、達成状況についての記述

に分析等がないこと、「豊かな人間性」と「図書」を結び付けることについて研究課題があること、特色ある教育メニュー等の表記、いろいろな方法を活かすための市の努力を強調することなどについても意見があったので、要検討ということにしたいと思う。

### **基本事業02についての指摘・提言・評価**

#### **【山下委員】**

達成状況に、成果指標が横ばいである理由の分析と2つの成果指標のギャップについても、わかる範囲で記述願いたい。

#### **【伊藤学校教育課長】**

次年度以降、記載するようにしたい。

#### **【小野寺委員】**

開かれた学校づくりに対して、学校という当事者自身が、どう関わり、どう意識しているのかということキャッチする方法を研究した方がいいのではないか。

#### **【伊藤学校教育課長】**

学校がどのように取り組むのか、課題がないのか、行政として手助けするものはないのかというのを私どもとしても把握すべきだと思うので、研究して参りたい。

～ 評価 ～

#### **【齊藤委員長】**

概ね適切だと思うが、達成状況の記述について、もう少し踏み込んだ分析をするということ、学校当事者が開かれた学校づくりということに、どういう意識を持っているかについての把握などを研究課題として付け加える。

### **基本事業03についての指摘・提言・評価**

#### **【小野寺委員】**

私は、「食べる」ことは、「生きることの教育をすること」だと考える。その観点からすると達成状況の分析が狭いのではないか。栄養教諭だけに食の教育を任せるとはならず、学校・家庭全体で、大きな観点から取り組む必要があるのではないか。

#### **【福井給食センター長】**

学校、家庭が協力して食育は進めるべきであり、現在、食育推進計画の策定が進んでいる。その中で十分に検討した上で、達成状況について検討したい。

#### **【井上副委員長】**

成果指標で、健康推進と関係したデータ、例えば、食育に関連した子どもの健康状態に関する指標などがあると、保護者指導にも役立つので検討していただきたい。

また、「スポーツに親しむこと」と「スポーツをしていること」という言葉は、印象的に乖離があると思うので、どのように捉えているか教えて欲しい。

#### **【福井給食センター長】**

1点目については、関係部局に関連性のあるものを確認したいと思う。

#### **【木村施策マネージャー】**

2点目については、小学校5年生、中学校3年生対象の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「週3日以上スポーツをしている」という項目で得た数値である。

**【山下委員】**

井上副委員長から話があった健康かどうかを明確にする成果指標の設定について強く要望したい。意図に、健康な身体を育むと記載している点からも必要かと思う。

スポーツに親しんでいる児童生徒の割合という成果指標が下がった原因、その他の2つの指標については、なぜ増加したのかについての説明が不十分だと思う。

**【齊藤委員長】**

健康かどうかの成果指標については、先ほど井上副委員長からも言われたことで、担当部局と相談するということであった。2番目は、スポーツに親しんでいるという成果指標が下がった理由についての記述を求めたいということであるがいかがか。

**【木村施策マネージャー】**

アンケートの数値をそのまま使用しているので、分析はしていないが、今後、分析し、表現していきたいと思う。総体的に、達成状況の表現方法については、十分に検討していかなくてはならないと思う。

**【齊藤委員長】**

客観的に達成状況を分析されるという流れがあった方がよい。

「スポーツに親しんでいる」はアンケートの数値ということだが、分析する所と連携はとれるのか。クロス分析もできるようになっているのか。

**【伊藤学校教育課長】**

内容が、運動中心になっているのと、母体が少ないので、クロス集計した結果に傾向がでるのかは不透明な部分である。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

成果指標にという話だったが、見通しが見つからないので、研究課題になるかと思う。

評価としては、概ね適切で健康等の成果指標やスポーツに親しんでいる指標が下がっていることの分析なども研究課題として取り組んでいただきたい。

**基本事業04についての指摘・提言・評価**

**【山下委員】**

成果指標の「適正規模の学校割合」が大きく下落している原因を教えて欲しい点とその旨を記述して欲しい点である。

**【木村施策マネージャー】**

児童生徒数は、1年間に300人程度、1校当たりの児童生徒数の平均が340～350人程度であるので、概ね学校1校ずつ減ってきている中で、適正規模を維持していくには、大きな違うことをしなくてはならないため、今回は、学校の適正規模としては減っているということになった。

**【山下委員】**

後期の目標値と大きく乖離してきているので、目標値を見直すのか、それともそ

のままで何らかの対策を打っていくのかということを書き記述するべきだと思う。

**【木村施策マネージャー】**

来年3月31日で江北中学校が閉校し、第三中学校に吸収される。また、江別小学校と江別第三小学校の統合について、地域と協議をしている状況である。そういうことを含めて、トータル的な判断を後期目標の数値という中で考えていかなくてはならないと思う。

**【齊藤委員長】**

後期目標の50%というのは、統廃合の全体計画があって、成り立つようなプログラムになっているのか。

**【園部学校教育支援室参事】**

平成25年度までの統廃合の基本計画を昨年定めており、それに基づいて25年度までに50%に適正化を進めるという目標を設定している。

**【齊藤委員長】**

山下委員のご指摘にあった、目標値を見直すということについては、昨年度作った計画に則って、進めているので見直す必要はないという理解でよろしいか。

**【園部学校教育支援室参事】**

少子化の進行が昨年計画を作った段階以上に、急速に進んでいる状況であり、学校の小規模化に拍車がかかっている。この辺の見直しについては、今後、検討していかなくてはならないと考えている。

**【齊藤委員長】**

達成状況は、こういう問題を分析し、記載してもらいたいということである。

**【井上副委員長】**

学校の耐震化についての指標を加えることについて検討して欲しい。

**【木村施策マネージャー】**

平成22年2月時点の耐震化率は、校舎62%、屋体85.7%であるが、学校全体で何校なのかというのは、難しい。国の経済対策等もあり、前倒して耐震化事業を行っているため、耐震化の工事ができる部分については、数年でほぼ達成できる状況である。しかし、レンガ校舎などは、診断をする術がないため耐震化が必要であるという判断ができない状況にあるので、すぐに、耐震化の指標ができるかどうかは、十分に検討を重ねていかなくてはならないと思う。

**【井上副委員長】**

おっしゃることは十分わかるが、意図として、「学校施設が整っている」と断定しているのであれば、100%の耐震化を望むものではなく、できる範囲はどこまで、現在の進捗状況を知らせる必要があるのではないかという思いで話した。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

急激な少子化のことや統廃合の計画について書かれた方が良くということと、耐震化の推進している状況を情報開示する必要があるのではないかということについて検討していただきたいということで、要検討とする。

## 2 政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

### 施策02 生涯学習の充実

- ・ 15時 7分～15時15分 小林施策マネージャー説明
- ・ 15時15分～16時 7分 質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

#### 【小野寺委員】

施策の環境変化と課題については、きちんと要領を掴んでおり見事な分析だと思う。その中で使われている「市民協働」の協働という言葉について、敢えて協働という言葉を使っているということは、何か意味を持たせているのか。

#### 【小林施策マネージャー】

意味を持たせている。行政だけでは生涯学習というものは成立しない。市民自らがボランティアで活動したり、団体を作ったり、個々に生涯学習を楽しんでいるわけであるが、学んだ成果を活かしていただくというのは、まさに市民の皆様の力無くしては成り立たないと思っているので、「協働」という言葉を敢えて使っている。

### 施策02についての指摘・提言・評価

#### 【井上副委員長】

施策の課題の文言について、3行目「技能等を習得させ、」とあるが、「習得し、」の方が適切かと思う。また8行目「協力体制を強化し、」とあるが、これは「充実」ではないか。

#### 【小林施策マネージャー】

ご指摘のとおりだと思う。

#### 【井上副委員長】

高齢化に対して生涯学習というのは、これから取組みが非常に大変になると思うので、成果指標の「生涯学習を行う市民割合」について、「市民割合」とひと括りにするのではなく、年齢構成別の割合・目的・到達状況・求めるものなどのデータがあれば「生涯学習を行う市民割合」の数値だけが一人歩きしないと思うので、バックデータとして押さえておいていただきたい。

#### 【小林施策マネージャー】

市民アンケートにより得た年代別の数値等をバックデータとして持っている。私どもが生涯学習として扱っている対象は基本的には生まれてから死ぬまでという範囲だが、学校教育の子どもたちは除いた大人を対象としたものがほとんどの事業である。その中でも時間のある方が生涯学習にたくさん参加されているというのが大雑把な押さえである。

#### 【井上副委員長】

今のご回答の中で逆に気になった点がある。施策の課題の中で職業能力や就業能力の習得も生涯学習の一環としているが、だとすると高齢者だけではなく、青少年健全育成の観点から就業目的を持った生涯学習という意味での分析もしていない



と、「青少年の健全育成推進（施策03）」のためのカリキュラム等を作るときのバックデータとして生きてこない。そこの連携を是非押さえておいていただきたい。

**【山下委員】**

施策達成状況について、成果指標向上の原因分析がなされていないので、バックデータでしっかり分析すべきである。それと、施策の目的が「自己の充実を図り、生きがいを見出すこと」となっているので、成果指標としては「生涯学習を行う市民割合」だけではなく、生涯学習を行った方々が自己の充実を図れたか、生きがいを見出せたか、といったことをきちんとフォローし、それを成果指標として設定することが望ましいのではないかと。

**【小林施策マネージャー】**

達成状況についてはご指摘のとおりであるので検討・修正等していきたい。二点目について、自己の充実や生きがいを見出すといった個々の目的・目標については、施策の目的にある生涯学習を行う機会を充実させることで、生涯学習という大きな括りの中でそれぞれが実現していると思うので、「生涯学習を行う市民割合」という指標の中で評価できればいいと思うが、さらに評価基準・指標等を求めることができるようであれば検討していきたい。

**【齊藤委員長】**

自己の充実・生きがい等についてアンケート調査がもしあれば、それを成果指標として足していくということも考えられると思うがどうか。

**【小林施策マネージャー】**

市民アンケート調査の項目がたくさんあり過ぎるという部分もあるが、表現方法も含めてアンケート調査に加えられるかどうか検討させていただきたい。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

概ね適切だが、研究課題として何点か指摘あり、ということとする。

**基本事業01についての指摘・提言・評価**

**【小野寺委員】**

地域にある学校施設は、生涯学習関連施設の充実という意味においてかなり重要なポイントとなる施設だと思うが、それについて直接ここには触れられていないので、行政として何か展望があれば聞かせて欲しい。

**【小林施策マネージャー】**

生涯学習関連事業では、子どもたちを集めて7～11月の間に10回ほど土曜開放事業をしている。平日開放は空き教室の問題や管理上の問題等で現在のところはない。

**【齊藤委員長】**

土曜開放の「子どもたち」には市民も含まれているのか。

**【小林施策マネージャー】**

子どもたちを対象に、地域住民の方々がボランティアで指導者になっていただい

て、伝統文化・芸術等を教えるという事業であり、地域住民の方や団体等の方が学校の空いた部屋を利用するという形では使われていない。

**【齊藤委員長】**

屋体などは使っていないのか。

**【小林施策マネージャー】**

学校体育館開放事業というスポーツ分野の事業では開放している。

**【小野寺委員長】**

ということは学校施設というのは、生涯学習関連施設の範疇に直接的には入っていないのか。

**【小林施策マネージャー】**

施策01「子どもの可能性を伸ばす教育の充実」の中で総務課が学校施設の管理等を担っており、そこと協議しながら土曜開放等で利用している。

**【山下委員】**

質問が二つ。1つ目は、達成状況のところ「指定管理者が行っている利用者アンケート調査で、施設満足度70%を超える数値となっている」とあるが、これは成果指標のことか。2つ目は、達成状況の最後に「整備を図っていく」とあるが、「整備」というのは新たな施設を建設する予定があると読み取れるが、具体的にそのような予定があるのであればお聞かせ願いたい。

**【小林施策マネージャー】**

指定管理者が行っている利用者アンケート調査の数値は、成果指標とは別のものである。成果指標は企画政策部で行っている市民アンケートの結果である。

**【齊藤委員長】**

基本事業の達成状況については、成果指標に基づいた分析があって、それにここに書かれているような公民館の利用人数であるとか、指定管理者が行っているアンケート等による補足で状況説明をするという整理にしたほうが良いのではないか。

**【小林施策マネージャー】**

達成状況で成果指標について触れていなかったのも、市民アンケートの色々なクロス分析等も含めて達成状況欄に記載するよう訂正等検討させていただきたい。

**【齊藤委員長】**

施設の「整備」についてはどうか。

**【小林施策マネージャー】**

新しく施設を建設する計画は今のところ無い。公民館等、建築後20年近く経っている施設が増えているため、そういった施設の整備をしていく、利用者の方に不便をかけないようにしていく、ということ「整備」の中心と考えている。

**【山下委員】**

そういうことであれば、「整備」と見ると市民がこの財政が厳しい中に何か新しい施設を造るのかと勘違いするかもしれないので、表現を改めた方が良い。

**【小林施策マネージャー】**

ご指摘のとおりだと思うので、文言等整理させていただきたい。

**【齊藤委員長】**

学校施設の中に生涯学習施設が入っていないというのは、行政として教育委員会の中に学校教育担当と生涯学習担当があり、それぞれで管理している施設が違うと考えてよいか。

**【佐々木情報図書館長】**

図書館は生涯学習を資料提供と個人学習の立場から支援するものであるが、豊幌小学校の中に図書館の分館を平成9年に設置したように、考え方としては散発的ではあるが学校施設をどのような形で生涯学習の施設として位置づけていくかということは底流としてはあると認識している。江別小学校と第三小学校の統合が視野に入ってきているが、例えば札幌市で学校統合により誕生した資生館小学校には、地域支援のための保育所や留守家庭児童会などの福祉施設が入っている。既に大麻西小学校にミニ児童館のような施設もあるので、そのような活用というのは江別市においても当然展望できるし、展望していかなければならない。それもまた施設整備という観点から考えられるべきものだと思っている。

**【井上副委員長】**

であれば施策の課題のところに、社会の変化に応じて生涯学習施設の見直しも計っていくというような文言も加えないと、市民には通じない。環境の変化に応じて生涯学習関連施設がどのようになっていくのかという方向性が読み取れる文言が必要である。また学校施設との連携も視野に入っているということも読み取れるような表現も必要ではないか。

**【小林施策マネージャー】**

学校がどのように変わっていくのかまだ先がはっきり決まっていない部分があるので、表現が難しい部分もあるがそれも含めて検討させていただきたい。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

概ね適切だが、指摘があった部分については研究課題とする。

**基本事業02についての指摘・提言・評価**

**【山下委員】**

成果指標の「生涯学習を主体的に行う団体数」とあるが、主体的というのはどういう判断基準なのか。

それと、達成状況について、「生涯学習推進協議会」というのが唐突に出くるが、これはどういう団体なのか。また、この書きぶりからだと第三者的な協議会の活動に期待していると読み取れるので、自分たちの活動がどういう達成状況にあるのかという判断の内容を記述していただきたい。

**【小林施策マネージャー】**

「主体的に行う団体数」というのは、各公民館の社会教育関係団体登録という制度で登録された団体の数である。

達成状況についてはご指摘のとおりで、成果指標についても記載されていないの

で、修正を検討したい。生涯学習推進協議会というのはH7年に市内の体育団体・文化団体・福祉団体等が生涯学習を推進することをめざして設立した団体である。

#### 【山下委員】

社会教育関係団体登録数が、主体的に行う団体数ということになるのか疑問である。

それと、生涯学習推進協議会と市との連携について、協議会任せになっているように読み取れるので、市が主体的に生涯学習を推進して行く立場であり、協議会の方々と協議をしながらも市としてはどういうことをめざしていくのか、成果指標としてはどの辺をめざしていくのかについて記載するよう、文言等ご検討いただきたい。

#### 【小林施策マネージャー】

団体育成の部分はどう表記するか検討させていただきたい。

#### 【井上副委員長】

基本事業02に入れるべきか03に入れるべきか迷うが、図書館の整備事業費・運営費というのは予算の中でも非常に多くなっているにもかかわらず、利用する市民をカウントする指標が一つもないので、例えば図書館の登録者数や貸し出し利用数などがどこかに出なければいけないのではないかと。できれば生涯学習支援体制の推進の中に登録者数の推移などが見えてくるとそれが生涯学習の充実の方にもつながるように思うのでご検討いただきたい。

それと成果指標の文言については「主体的に行う」ではなく「登録団体数」というように変えたほうがはっきりわかるのではないかと。

#### 【佐々木情報図書館長】

図書館の立場としては基本事業03の生涯学習機会の充実の方に入るべきと考える。ただ、図書館の登録者数というのは年度更新ではなく何年かに一度更新するものであるため、具体的には個人貸し出し数や団体貸し出し数のような指標の方が適当かと考える。

#### 【小林施策マネージャー】

ご指摘のとおり「主体的に行う団体数」の文言については、「登録団体数」に修正したい。

～ 評価 ～

#### 【齊藤委員長】

概ね適切だが、成果指標や達成状況の表記等について研究課題としたい。

### 基本事業03についての指摘・提言・評価

#### 【山下委員】

施策の環境変化と課題で「循環型」という言葉を使っているのは、生涯学習の結果を社会に還元していくことを意図していると思うが、この部分はまさにこの基本事業03に入ってくると思うし、実際、成果指標にも「学習した成果をまちづくりやボランティア活動等に活かしている市民の割合」とある。であれば意図のところ

にもその表現を追記する必要があるのではないか。

もう一点、達成状況のところ「一概には判断できない」とか「比較的良好な意見を得ている」という表現があるが、これはもっと具体的に分析の内容に触れていただきたい。地域別・年齢別・性別等クロス分析した結果や、比較的良好な意見というのは具体的にどういった意見なのかについて触れていただければと思う。

**【小林施策マネージャー】**

意図の欄はご指摘のとおり、学んだ成果を社会に活かすことができるという表現等について検討させていただきたい。

達成状況についても見直しをしていきたい。

**【井上副委員長】**

江別市の生涯学習の特性として、生涯学習した成果を活かすときにどういう場面で強く活かされているのかという「分野」ということにスポットを当てると、充実がさらに図られるのではないかと思う。一般的な統計分析プラスアルファで江別市独自の分野というものを見つけていただき、それを伸ばすことで生涯学習機会の充実がさらに図られるのではないかと思うので、その視点も押さえていただきたい。

**【小林施策マネージャー】**

その視点で検討していきたい。

**【小野寺委員】**

関連してもう一点意見がある。達成状況に関して、市民はニーズが多様化するだけでなく生活圏が拡大している。併せて学習要求も多様化するだけでなく高度化している市民が多い。そういう人たちに応えるための人材育成や人材活用を強調する必要があるのではないか。

また、生活圏の拡大に関連して、近隣自治体間の連携が必要ではないか。横断的に生涯学習というものについて考えていく必要があると思う。自治体間の連携をするときには規制緩和の趣旨に照らして、対等な関係でお願いしたいし、それを市民にも反映していただきたい。

**【小林施策マネージャー】**

色々な講座等を開いている中で、札幌や道の事業等に参加されている方も多くいらっしゃる。また定年退職者が最近増えているので、そういった方々が学んだことを活かす場という意味での活用方策等をこれから求められると思っているので、そういったことを含めて検討して参りたい。一方、道とは道民カレッジという事業で少し連携をしているが、近隣の市町村との連携については事業の周知をする程度の状況である。

**【山下委員】**

意図について、三本立てで記載してあるが、下の二本は一番上の一本目に含まれると思う。これは三本に分ける意味があるのか。分ける意味があるのであれば、それぞれに成果指標が必要になると思うが。

**【小林施策マネージャー】**

「学習機会がある」という大きな括りにしてカッコ書きで下の二本を一本目にま

とめて、それと別にもう一本、先ほどご指摘いただいた「学習の成果を活かす機会がある」の二本立てにするのが良いかと思うが、学習の成果を活かす機会という指標をどのように取っていけばいいのかということも含めて検討させていただきたい。

**【佐々木情報図書館長】**

個人学習の支援ということからすると資料提供を受けられる図書館というのは大変重要な役割を持っている。先ほど小野寺委員から自治体間の連携というお話があったが、図書館の場合だと全道あるいは全国の図書館から資料を取り寄せて個人学習の支援をしている。そういうことから考えると、意図の部分、さらに貸し出し冊数等の成果指標をこの中に盛り込むというのはその反映であり、この部分については精査して団体学習・個人学習を網羅した生涯学習の支援という形でまとめていく方向で検討したいと考えている。

**【小野寺委員】**

市民として、情報図書館というのは大変良い図書館で、優れた取組みをかなり行っていると思う。先ほど豊幌の分館という話もあったが、もっと拡げて欲しい。また市民に大いにアピールしていただきたい。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

整理していただく必要があるが、概ね適切ということでもいいかと思う。

**3 政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実**

**施策03 青少年健全育成の推進**

- ・ 16時 5分～16時15分 園部施策マネージャー説明
- ・ 16時15分～16時55分 質疑応答・評価

～確認したい点、疑問点～

**【山下委員】**

「青少年」の定義を教えてほしい。

**【園部施策マネージャー】**

児童福祉法では小学校就学の日から満18歳まで、少年法では20歳に満たない者とされるが、江別市としては少年法に基づき20歳に満たない者を青少年としている。

**【山下委員】**

施策の対象としている青少年の定義は何歳か。

**【園部施策マネージャー】**

小中学生と20歳に満たない年齢の者を対象としている。

**施策05についての指摘・提言・評価**

**【山下委員】**

成果指標「社会生活や集団生活のルールなどの大切さを理解している児童・生徒

の割合」では小5と中2を抽出しているが、施策が20歳未満を対象としていることから、20歳未満として見れる成果指標を設定するべきではないか。

また、「青少年の検挙・補導等人数」について、後期目標値が「30」となっているが、21年度の成果値「20.9」とは10件も乖離していることから今後の目標値として相応しいのか。

施策の達成状況で「上昇傾向にある」「後期目標値を達成している」と書いてあるが、「なぜそのような状況なのか」について触れていないので、その辺の補記を要望する。

#### 【園部施策マネージャー】

年齢については、教育委員会の所管が小中学生の義務教育の範囲なので、それ以外の指導や調査等は難しいことから小中学生を対象とした指標となっている。一方で「青少年の検挙・補導等人数」は19歳までを対象としているので、その辺も視野に入れて検討していきたい。

後期目標値の「30」については、成果値が「20.9」のため軽くクリアしているように見えるが、昨今の犯罪の多様化等を考えると、来年はどうなるか分からない側面もある。そのため目標値「30」は妥当かと思われる。

達成状況については、その背景等を踏まえて分かりやすいよう表現を検討したい。

#### 【井上副委員長】

対象で「小・中学生、高校生、保護者、地域住民」とあるが、青少年の健全育成のためには、少なくとも20歳未満で就業している人たちがいる、そして未就業で学校等に属さない人たちも想定できるとして、地域住民にプラスして企業等も含めて対象とした方が良い。

意図は「問題行動が解消される」というマイナス面だけではなく、健全な生活を営む環境整備などプラス方向の「意図・施策のねらい」を設定できないか検討願いたい。そうすると成果指標にある「理解をしている」数値とマイナス面の「検挙数」数値とで合致する。

#### 【園部施策マネージャー】

検討する。

#### 【山下委員】

指標に高校生がもれている。さらに言えば、中学生を卒業して20歳未満の方が欠落している。それを補足するような成果指標の設定を検討した方が良い。基本事業01・02も同様。

#### 【園部施策マネージャー】

検討する。

#### 【井上副委員長】

基本事業02の成果指標に「相談が役に立ったと思う児童・生徒・保護者の割合」とあるが、相談については子どもの権利条約があるように、児童・生徒と保護者は別にしないと成果指標としては見にくい。

#### 【園部施策マネージャー】

数値に保護者は入っていない。保護者については教育委員会に電話をいただいたり、青年センターの教育相談に来ていただくなどしているので、別な形での指標のデータ収集を検討したい。

**【齊藤委員長】**

「児童・生徒・保護者」の中の保護者は削除してよいか。

**【園部施策マネージャー】**

はい。

**【井上副委員長】**

気になるのが、動きが見えない若者たちの部分である。高校中退、不登校になり義務教育を終えていない子どもたちの生活実態や就業形態などは把握できるのか。できるのであれば「青少年の検挙・補導等人数」との兼ね合いも見えてくると思われるが、その辺は把握しているか。

**【園部施策マネージャー】**

現状では把握していない。その辺の問題になると健康福祉部子ども家庭課などと連携していく中で今後検討していく課題となる。教育委員会で把握している範囲では、そこまでのデータはない。

**【井上副委員長】**

「青少年の検挙・補導等人数」が減少するのは嬉しいことだが、問題行動が低年齢化・多様化している状況を踏まえると、教育委員会だけの数値把握ではなく、健康福祉部などとも連携していかなければならない。横軸に数値を見ていくことが青少年健全育成の対策では必要な部分だと思う。ここで「対1000人当の数値」が減ったので、あまり悪い子どもたちはいない、というような把握にならないよう、きちっとしたものを据えていく必要があると思うので検討願いたい。

**【園部施策マネージャー】**

昨年、子ども・若者支援法が成立して、地域で協議会をつくり検討していく動きもあるので、そのような市全体として青少年対策に取り組む中で検討していきたい。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

評価については概ね適切で、色々と指摘がありましたので研究課題として検討願いたい。

**基本事業01についての指摘・提言・評価**

**【小野寺委員】**

基本事業の目的と意図に「地域教育」との表現があるが、これは曖昧な表現だと思う。例えば「地域に根ざした」「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」など具体的な表現にした方が分かりやすいと思う。

成果指標にもあるが「健全育成のために」だけでは限界があると思う。この問題は学校教育・生涯学習そのものの問題として捉えて意図的に進めていく必要がある。特に、子どもたちの社会参画体験や異世代間の交流などへ統合的に取り組むべきだと



思う。

**【園部施策マネージャー】**

「地域教育」の表現については分かりづらい表現かと思うので精査したい。  
学校教育や生涯学習の視点からの学習・生活支援という意味で、この辺についても検討していきたい。

**【山下委員】**

対象に「高校生」とあるが、高校生向けの事業がこの基本事業にぶら下がっているのか。

成果指標「健全育成の活動のために学校・家庭・地域が連携して行っている取り組み事業数」で後期目標値 60 をすでにクリアしているが、設定はこのままで良いのか。

達成状況で「年々地域に浸透し」とあるが、浸透した理由が必要ではないかと思う。「児童・生徒の割合は微減である」とあるが、微減である理由について触れていただく必要があると思う。

**【園部施策マネージャー】**

高校生向けの事業については、特に高校生を対象とした事業は実施していない。  
後期目標値については検討が必要かと思われる。防犯パトロール隊や子ども見守隊などの団体に限定しているが、その辺の団体としてはピークに近いと思うが、生涯学習全体での位置づけであれば、数値を見直していく必要があると思っている。

**【齊藤委員長】**

目標値を見直すことはできるのか。

**【事務局】**

総合計画の目標数値を5ヵ年の途中で見直すことは難しい。単年度の施策達成度状況報告書の中で、そのような文言を入れながら説明していくことは可能かと思う。

**【園部施策マネージャー】**

活動の団体数が増えているため「浸透している」と表現しているが、その辺を分かりやすくしたい。微減の部分は、理由について即答できないが、その辺の背景についても説明した方が良いと考える。

～ 評価 ～

**【齊藤委員長】**

評価については、いくつか指摘が出たが概ね適切と考える。いくつか指摘も出たので研究課題としていただきたい。

**基本事業02についての指摘・提言・評価**

**【山下委員】**

意図に「悩みを相談できる場があり」とあるので、場が充実しているかの成果指標も必要ではないか。

**【園部施策マネージャー】**

心の教室相談員やスクールカウンセラーの配置人数などの指標が設定できるかと

思われる。

**【齊藤委員長】**

現在の成果指標は1つだが、それに加える形で検討していただきたい。

**【山下委員】**

達成状況「アンケートでの利用者の満足度は横ばいであり」とあるが、達成状況は原因分析が重要だと思うのでお願いしたい。

**【齊藤委員長】**

留意願いたい。

**【小野寺委員】**

カウンセリングやケアの大切さを否定はしないが、子どもたちの悩みも時代背景を考えると深刻化している可能性がある。相談に出てこない問題もある。それに対応する指導者の養成も必要だが、子どもたち一人ひとりの課題や状況に応じて成長や支援を促すガイダンスの発想に立つ指導者が必要ではないかと思う。ガイダンス能力の育成を視野にいたした指導者の要請がますます必要になると思われる。

**【齊藤委員長】**

悩みが発生してからカウンセリングやケアを受けるのではなく、問題が起きる前の予防として子どもたちに指導していく意味でのガイダンスということか。

**【小野寺委員】**

そのような側面も含めて、指導者の育成が必要だと思う。

**【齊藤委員長】**

一対一のカウンセリングではなく、これから発生するような状況を想定しつつ、集団で子どもたちを教育していくということか。

**【小野寺委員】**

本来、学校教育の場において教師がそのような役割を果さなければならない。今後は、そのような指導能力も必要になってくると思われる。

**【齊藤委員長】**

兆候や予兆を掴んで、事前に手当していくということですね。

**【園部施策マネージャー】**

学校の先生の資質を高めることが大事かと思う。心の教室相談員には、教育委員会でも研修事業を実施して資質の向上に取り組んでいるが、そのような指導者の育成にも力を入れていきたい。

**【井上副委員長】**

今後の政策等の検討の中で使っていただけたらと思うが、心のケアの充実を図ったら、それがどのようにフィードバックされているのか検討が必要である。問題は数が増える・難解な問題が出てくる・低年齢化してくると思われるが、それをどのように解決していくかとなると、どこにフィードバックするのかという仕組みづくりをしていく必要がある。「学校教育の中で」というが、先生方のフィードバックされたものをどのように受けとめて教育に消化させていくのかまで連携プレイを取らなければ成果は出てこない。一気に成果指標を求めるのではなく、仕組みづくりを

しっかりすることで成果指標を作るというような方策を、青少年の分野は数字として出すのは難しいと思うので、連携プレイで出していくことを検証願いたい。

#### 【園部施策マネージャー】

青少年の健全育成や子どもの問題については、教育委員会だけではなく、健康福祉部でも家庭児童相談など実施しており、子どもや保護者などから相談を受けている。問題が発生した場合には、逐次連携を図りながら対応している。教育委員会だけの問題ではなく、全庁的な視点で健全育成の仕組みづくりを考えていきたい。

～ 評価 ～

#### 【齊藤委員長】

評価については、概ね適切で、いくつか提案があったので留意願いたい。

#### 全体を通して

#### 【山下委員】

青少年の分野については全庁的な取り組みが必要となるので願いたい。

青少年の定義が小学生以上20歳未満となっているが、高校生以上20歳未満が手当てされていない感じがするので、「そこに打つ手はないのか・基本事業が一本必要ではないか」その辺もご検討願いたい。

#### 【園部施策マネージャー】

小中学生の義務教育から取組んでおり、高校生以上20歳未満については具体的な指標の中に現われてこない部分はあるが、その辺は今後検討していきたい。合わせて、全庁的な青少年健全育成のための仕組みづくりなどを勉強しながら検討していきたい。

### 3 その他

- ・前回と今回を合わせて計6施策の外部評価を終えた。
- ・今年度の外部評価結果について報告書を調製することになっているが、報告書は事務局にて草案を作成し、委員長と副委員長が更正・追記等を行ったうえで次回の委員会に原案として提示する。
- ・次回の委員会日程は後日事務局より通知する。

### 4 閉会

これで第3回江別市行政評価外部評価委員会を終了する。